

# 図書館実習をふりかえって

伊藤 舞乃（社会学部現代文化学科）

## 1 はじめに

私は大学1年次より司書課程を履修しており、今夏3年次での図書館実習への参加を決めました。本稿ではシンプルに私が感じた図書館実習のおもしろさや充実感についてお伝えし、参加を決めた後輩の皆さま方の不安を軽減する、あるいは迷っている方々の背中を押すことができればと思っております。

## 2 図書館実習の概要と実習館について

私は幼少期から現在に至るまで利用者として通っている地元の立川中央図書館にお世話になりました。お盆の頃から2週間、土日は休みでした。8:30~17:00、朝早くからフルタイムに近い時間を実習生として過ごしました。先生からも口酸っぱく言われているかと思いますが、身も心もくたくたになります。加えて8月中に実習がある場合、夏休み中の多くの児童・学生が図書館を訪れるため繁忙期での実習となります。期間中は実習に没頭できるよう、学部の課題のすすめ方などを計算して夏休みを過ごされることをおすすめします。

脇道に逸れてしまいましたが、実習館についてご紹介させていただきます。中央図書館は市内最大規模の中心館であり、市内にある8つの地区館とのネットワークの中で運営されています。ファーレ立川センタースクエアというビルの2~4階が図書館であり、2、3階が一般書のフロア、4階が児童書フロアとなっています。2階には一般書の多くと雑誌新聞、地域資料、ビジネス支援、子育て支援やシルバー情報コーナー等があり、3階には一般書の一部と視聴覚資料、YA資料、外国語資料、またレファレンス室があります。

実習内容については中央図書館を構成しているすべての要素を網羅的に経験させていただきました。私が前もって選書の過程に興味があると話していたため、選書会議にも多く同席させていただくことができました。この話につきましては後述します。また、近頃は指定管理者制度が公共図書館にも進出し、窓口業務などサービスの一部を外部委託している図書館が多いようです。しかし立川市では地区館は完全に委託、中央のみ委託なしで運営されていたため、私の場合は貸出・返却等も実習の大きな位置を占めていました。

## 3 実習での経験

前述したように実習内容として窓口業務があり、全日程の3分の1ほどは窓口業務だったと思います。そのため、私は「やはり対人サービスの仕事なのだ」という実感をひときわ強く持ちました。そうして私が身をもって重要であると感じたのは、至極当然なことではあるのですが、分からないことがあったら何度でも聞くということです。直接サービスではなくても心にとめておかなければならないことではありますが、カウンターに立つ以上、あやふやな理解のままに利用者の方々と接することは、利用者にご迷惑をかけるだけではなく図書館としての信頼を落とすことになりかねません。視聴覚資料のカウンターでの貸出・返却の仕事に当たったとき、直前に説明を受けていたにもかかわらず、実際にカウンターに立つとCDやDVDの違いや手順の多さにパニックになってしまったことがありました。このままでは仕事ができないと思い、バックヤードで職員の方にもう一度説明していただき、もたつきながらもなんとか遂行することができたという出来事がありました。その日にとったメモ

を夜や翌日の朝に読み返しておくことも有効だと思います。

対人サービスに関連するのは児童フロアでの実習でしょうか。児童に対しては怖がらせずスムーズにカウンターでのやりとりができるよう、細心の注意と最大の笑顔をもって臨まなければなりません。また読み聞かせは多くの方々にとって不安の種だと思います。私の場合は、直前に職員の方がやった手遊びが尋常ではない盛り上がりを見せたため、子どもたちが話を聞くモードに入っていないままの読み聞かせとなり大変苦労しました。途中で歌いだす子や「この本知ってる…」と退屈そうな子たちを前に、正直心が折れそうになりました。しかし読み終わって拍手をもらい（後ろで聞いていた親御さんたちの優しさが沁みました）、最後に子どもたちからお礼を言われると報われたような気持ちになりました。私の読み聞かせは決して成功とはいえないと思いますが、印象深い実習のひとつです。

受け入れ館の方々は実習生の希望に少しでも添えるように努力してくださると思います。私が選書の過程を見てみたいと話したところ、児童書・一般書の選定会議に参加させてもらうことができ、実習館だけではなく市内の地区館の職員の方々ともお話をしたり、市全体としての選書というものも学ぶことができました。例えば一般書の選定会議で印象的だったのは、各館の購入希望を共有していく中である館が購入を取りやめたり、他の館に譲ったりといった場面が頻繁に見られたことでした。購入希望の動機も利用者からのリクエストによるものだから、そろそろ新しいシリーズものを加えたいからというように各館によって様々です。ほかにも立川市図書館の蔵書冊数など多角的に「どこが何冊買うのか」を検討しスピーディーに決定していく職員の姿が大変格好良く見えたのを覚えています。

2の前半で実習期間が8月中で夏休みと被ると特に児童フロアは忙しいと述べましたが、夏休みならではの経験もできたので最後に加えておこうと思います。実習期間中、小学生を対象にした点字体験会が行われそのお手伝いをさせていただきました。前日に点字の基礎知識や点筆の使い方等を習い、一通り勉強してからの参加でした。体験会の内容としては、自分の名前を点字で打ってみたり点字絵本をながめたり、世の中にある点字を読むクイズをしました。ほとんどは親子での参加でしたが、1人で来てくれた女の子がおりその子につくように言われたときは不安でした。子ども相手が苦手であることを自覚していたためです。しかし硬い表情が次第にほぐれて、張り切ってクイズに取り組んでいる様を見られたときは胸がいっぱいになりました。

#### 4 おわりに

私はただただ実習が楽しく、終わりが近づいてくると寂しさを感じるほどでした。もちろんたくさん間違えましたし大きなミスも2回もしてしまいましたが、それでも繰り返し質問をして必死に食らいついていけば職員の方々は優しく教えてくださいます。何よりも、大学の講義では得ることのできない生き生きとした学びがあります。無我夢中で2週間を過ごすうちにいつの間にか多くの知見が身につき経験が蓄積されているはずです。皆さまの実習が楽しく、充実した時間になることを心よりお祈り申し上げます。